

2024.2  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみ やく 富 薬

# 2号

第46巻  
No.415



タマリンド *Tamarindus indica* L. (マメ科 *Leguminosae*)

- 生薬** タマリンド 冬から春に摘み取り、種子の膨らみごとに切り離し、割って種子を除いて陽乾する。
- 成分** 有機酸：tartaric acid, citric acid, malic acid、ビタミン類：thiamin, riboflavin, nicotinic acid, pantothenic acid, folate, ascorbic acid、糖類：glucose, fructose、アミノ酸類：tryptophan, lysine, methionine, serine,  $\beta$ -alanine, proline, phenylalanine, leucine 等
- 効能** 第四改正日本薬局方に記載され、果肉を熱性病や緩下剤として用いたことがあるが現在は用いていない。中国では暑気払い、産婦の嘔吐、食欲不振に、タイ、インドネシアでは食欲増進、下剤に用いる。

生薬 タマリンド

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



樹高30mになる常緑高木で、葉は互生し、20-30片の小葉から成る偶数羽状複葉で、明るい緑色の小葉は長楕円形鈍頭、全縁で、夜間は葉を閉じます。花は短い側枝の先に総状花序につき、花芽は赤色で2枚の小包に包まれ、開花すると脱落します。4-5月頃、5弁で淡黄色、橙色-赤色の縞模様があり、芳香を持つ花を咲かせます。晩秋から冬にかけてソラマメ (*Vicia faba*) の鞘に似てやや湾曲し、肉厚な円筒形の果実を多数結びます。長さ10-20cm、幅2-4cmほどの豆果は非開裂性の鞘で、外果皮はもろくて壊れやすく、中にやや乾いたあめ状の果肉泥があり、内に繊維性の強靱な内果皮があります。中に黒褐色で扁平な堅い種子を含みます。

熱帯アフリカのサバンナ地帯を原産地とし、エジプトの医学書『エバース古典』(BC 1550頃)には緩下剤として「植物粘液、セイヨウニンジンボク (*Vitex agnus-castus*)、タマリンド、カヤツリグサ (*Cyperus microiria*)、ジュニパー(セイヨウネズ *Juniperus communis*) の実、乳香 (*Boswellia carterii*)、下エジプトの塩をよく煮詰め、そこに蜂蜜を加える。火から下ろして、人肌くらいになったら一日に飲む」、また頻尿に「タマリンド、カヤツリグサを甘いビールに入れ、煮てから裏ごしし、四日間飲ませる」や、他に消化不良、腹部の中の詰まりをとり、潰瘍・出血を止めるなどの薬に配合されることが記されています。紀元前4世紀にはテオフラストスにより、1298年にはマルコポーロによってヨーロッパに紹介されましたが、原植物が入らず、永い間インドから来るヤシの一種と考えられていました。タマリンドの名がアラビア語の「tamar-Hindiy」(インドのナツメヤシ)と誤解されていたことから分ります。

中国においては『本草綱目』(1578)に『桂海志』(1175)を引用して「広西に産する。殻は長さ数寸、肥皂、及び刀豆 (*Canavalia gladiata*) のようで色は正丹色、内に二、三子あって、煨いて食へば甘美だ」と云っています。また『本草拾遺』(739)に「心膈間の熱風、心黄、骨蒸寒熱。三蟲を殺す」と薬効も記されています。日本に伝わった時期ははっきりしませんが、江戸後期の1884年という説があります。「第四改正日本薬局方」(1922)には果肉を清涼性の飲料として熱性病に、また緩下剤として収載されていましたが、あまり用いられなかったようで後に削除されました。

医薬品以外にも利用価値が高く、稀に甘酸っぱい果実をつける品種を栽培して中果皮泥を生食します。また中果皮泥を集めてペースト状のブロックにしたものは酸味のある調味料としたりジャムに加工します。水に溶かしてジュースにしたものは有機酸や糖類、ビタミン、アミノ酸を含み、まるでスポーツ飲料のような飲み物にもなります。堅い内果皮は金属を磨いたり、タンニンを含み染色に用いられます。種子は油で揚げたり、茹でたり、炒ったりして食用にされるし、インドでは種子粉末をチャパティの材料に使用します。また粉碎し多糖類のキシログルカンを精製したものを、タマリンドシードガムと呼びソースやたれ、ドレッシング、佃煮などに粘性を持たせたり、コク味を付け、ツヤ・照り出しに使います。

若い葉や花、若い莢は酸味があり、スープに入れる野菜や飼料として利用されます。樹皮からはタンニンが採取されます。暗赤色の材は強く耐久性があり、ろくろ細工、家具・フローリング材、熱量の高い良質の薪炭等に利用され、黒色火薬や燃料にも使います。またマホガニーの代用としても用いられます。樹形が美しいため街路樹としてまた、公園樹として植栽され、花は蜜源となるなど利用範囲が広く、紀元前の早い時期にインド、東南アジアの乾燥した熱帯域で栽培されるようになりました。オーストラリア、台湾、中国、メキシコなどにも広がっています。(村上守一 記)